

子どもの読書活動に係る現状及び今後の課題・具体的な取組（案）【各課の状況】

20230608 総合教育会議資料

担当課名	現状	今後の課題・具体的な取組（案）	別添資料
幼児課	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各就学前施設では毎日の保育の中で絵本の読み聞かせを継続している。また、子どもたちがすぐに手に取って絵本を見られるようそれぞれの施設で環境を工夫している。全体での読み聞かせだけでなく、子どもが保育士とスキンシップを取りながら個別に読み聞かせをしてもらうことで心が安定することもある。絵本の読み聞かせを楽しみにしている子どもが多い。 ・ 各施設の絵本環境をデータ化し、全施設で共有することで各施設の絵本環境の向上に努めている。 ・ 地域やボランティアの方に読み聞かせをしてもらう機会を作っている施設もある。いろいろな方とふれ合う機会にもなり、人の温かさにふれ、人と関わる楽しさを感じる姿につながっている。 ・ 図書館とも連携を図りながら、はちっこブック号を活用し、色々な絵本との出会いを大切にしている。 ・ 家庭でも読み聞かせをしてもらえるよう絵本貸し出しをしたり、園で読んでいる絵本の紹介をしたりして家庭での読み聞かせの推進にも取り組んでいる。 ・ 令和2年から3年間、絵本に囲まれて育つ子ども推進事業で各就学前施設に絵本購入をしたこと、また尾賀亀(株)様、ソロプチミスト様などから絵本を寄贈いただいていることで蔵書数増加につながっている。今年度も絵本に囲まれて育つ子ども推進事業を継続することになり絵本購入を推進していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各就学前施設での読み聞かせにおいては、経験の浅い保育士も多く、絵本の選定の仕方や読み方などの支援をするため、幼児教育センターが絵本の読み聞かせ出前講座を実施する。 ・ 家庭に持ち帰る絵本貸し出しは各施設で頻度に差があり、特に民間園では、貸し出しを実施していない園もある。今年度の絵本に囲まれて育つ子ども推進事業では各施設年間3回以上の貸し出しをするという条件を設定するなど貸し出し日の少ない園には回数を増やしてもらえよう啓発していく。 ・ 読み聞かせに対する意識は家庭によって差が大きいため、意識の低い家庭に対しては個別に声掛けをしたり、保護者向けに読み聞かせをしたりするなど保護者の意識を高めるための工夫が必要である。 ・ 今年度は事業の継続で各施設に40万円の予算が配分され、より蔵書数の増加につながる事となる。令和2年より絵本に囲まれて育つ子ども推進事業で整備した絵本を活用しながら子どもたちが“読んでみたい”“絵本が好き”と思えるようなより良い絵本環境の工夫に取り組んでいきたい。 	なし
学校教育課	<ul style="list-style-type: none"> ・ 令和4年度全国学力・学習状況調査によると、市内の小学6年生の30.1%、中学3年生の43.3%が学校の授業時間以外では全く本を読まないと回答している。また、学校図書館の一人あたりの年間貸出冊数は、小学校で12.7冊、中学校で1.5冊と年々減少している。 ・ 本を読まない主な理由としては、「テレビ・スマホ・ゲームをするから」「読みたい本がないから」「本を読むのが嫌いだから」が上位に挙がっており、読書習慣が定着するように学校と家庭とで取り組む必要がある。 ・ 各学校では、朝読書や読書ボランティアや教員による読み聞かせに取り組んでいる。また、学校図書館の利用についてのオリエンテーション、百科事典の使い方指導、ブックトーク、国語科における並行読書や各教科の関連図書の展示、調べ学習に使う資料収集を学校司書が中心となって行っている。 ・ 学校司書や図書委員会、図書館担当の教員が中心となり、子どもたちの身近なところに本を置くために、廊下やホールに学年文庫を設置したり、児童・生徒の興味を引くためのポップやポスターの作成をしたりしている。 ・ 毎年、教職員や子どものニーズに合わせて選書を行い、古い本は廃棄して蔵書を更新している。また、小学校の図書充実のために村松報恩会様から平成元年より、また尾賀亀(株)様から令和2年から寄附の寄贈を受けて学校図書の充実を図っている。 ・ 蔵書率が100%に満たない学校が複数あるが、古い書籍を積極的に除籍しているという見方もできる。 ・ 学校司書5名が、一人あたり3～4校を担当している。週1、2回しか各校に勤務できないため、図書館担当や担任との連携が難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教職員が学校司書や市立図書館と連携し、読書習慣を身に付けたり、本や資料を活用し、主体的に探究する力をつけたりできるような授業づくりに努める。今年度は各校で学校図書館利用指導・読書指導年間計画を作成し、実践事例を共有して、読書に関する取組を広げていく。 ・ 生涯学習課と共催で「子ども読書推進研修会」を開き、学校図書館の整備や学校司書や読書ボランティアとの連携の在り方について教職員や学校司書等が学ぶ機会を設ける。また、県で開催される図書館教育についての研修を広く周知し、参加を促す。 ・ 学校司書を活用やした授業や図書を使った授業等の実践事例を市内で共有し、実践を広げていけるように、各校年間2本は実践事例報告を挙げる。また、図書主任会で実践交流を行う。 ・ 司書教諭や図書館教育担当教員に図書館教育のモデル校（岡山小・八幡中）での研究授業参観を促し、各校での実践に活かせるようにする。 ・ 学校司書が不足しているため、増員のための予算を計上し、いつも人が存在し、子どもの心を癒す「心の居場所」、子どもの主体的な学習を支援できる「学習・情報センター」、読書の楽しさのきっかけをつくる「読書センター」としての学校図書館を目指す。 ・ 学校図書購入に係る令和5年度の予算は小学校で約410万円、中学校で約220万円計上しており、学校の蔵書数や更新の必要性を勘案し、学校司書を中心に図書の購入検討を行う。 	<p>○令和5年度 近江八幡市 学校図書館 教育方針 【別添1】</p> <p>○令和5年度 学校司書派 遣要項 【別添2】</p> <p>○令和4年度 各校書架 配置状況 【別添3】</p>

子どもの読書活動に係る現状及び今後の課題・具体的な取組（案）【各課の状況】

20230608 総合教育会議資料

生涯学習課	<ul style="list-style-type: none"> ・ 令和5年5月、市内民間就学前施設にアンケート協力依頼で訪問をした際の子どもたちを取り巻く「読書環境」や「家読（うちどく）」についての状況の聞き取りから、各園所において「家読」というキーワードがかなり浸透しており、「家読」を推進するために、絵本の持ち帰りに積極的に取り組んでおられた。ただ、保護者の「家読」に対する意識は二極化しており、家庭では、動画の視聴や習い事等が優先され、読書の順位が低くなっていること、保護者の読書への関心が、子どもにもかなり影響しているように感じられる園所が多かった。 ・ 年齢が上がるにつれて、本離れ傾向が顕著であるのに反して、どの園所でも共通して聞き取ったことは、就学前の子どもは絵本が大好きで、先生の読み聞かせを楽しみにしているということであった。ブックスタート、就学前、小学校、中学校への読書意欲の接続にも工夫が必要である。 	<p>不読率の解消および家読の更なる推進に向けての取組を進める。</p> <p>【具体的な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子育てサロン、子ども食堂、放課後子ども教室、子どもセンター等の開催時におすすめ絵本を並べて、保護者や子どもに絵本を手にとってもらい、読み聞かせや家読の啓発を図る。（県事業「やってみませんか？『おうちで読書』ブース出展のススメ」の活用） ・ 子どもセンターでの指導主事による読み聞かせの場を設け、不読率の低下を目指す。 ・ 市島恵子先生の二人ブックトークを市のPTA大会等で保護者対象にお願いする。 ・ 「家読」の啓発として、保護者向けにリーフレットを制作し配布する。 ・ 幼保小接続カリキュラムの中に、読書についての接続も加える。 ・ 読書状況調査を実施して、「第2次子ども読書活動推進計画」の5年間の推進結果を検証するとともに、その検証を受けて、次期5年間の本市の子ども読書活動推進に向けた「第3次子ども読書活動推進計画」の策定を行う。 	<p>○市内民間就学前施設の聞き取り状況</p> <p>【別添4】</p>
図書館	<p>別紙のとおり</p> <p>ブックスタート事業、武佐学区の読書支援、本のまち動く図書館事業の3点を中心に現状と課題を整理</p>		<p>○「こどもとしょかん」検討事業</p> <p>【別添5】</p>